

ぐるめ散歩

日本料理

らくら 楽蔵

キッズスペースを備え、子ども連れでも気兼ねなく日本料理が楽しめる。

川崎市中央卸売市場北部市場で仕入れた旬の魚介類を使った豊富なメニューがあり、刺身や煮付け、水槽で泳ぐアジを使ったたたきなどが好評。ふっくらと焼いただし巻き玉子、ジューシーな焼き鳥や鶏の唐揚げなどは子どもに人気だ。また、昼は定食や弁当を提供



蔵元宏貴さん(右)と麻衣子さん

☎5761-7355 西野川 1-15-5 営業=午前11時30分(土日祝日は正午)~午後2時30分/午後5時~10時、木曜日休み



新鮮な魚介類を使った多彩な和食 キッズスペースもあり親子で楽しめる



している。

店主の蔵元宏貴さん(39)は霧島市出身で、鹿児島市内の懐石料理店で働いた後に上京、和食を中心に様々な店で約10年腕をみがいた。平成27年に狛江市へ転居、28年に独立し念願の店を開いた。テーブル6卓とカウンター7席で最大35人まで入れる店内には、保育士をしていた妻の

休日やランチタイムなどは家族連れや主婦グループでにぎわう。

蔵元さんは食の安心安全にも配慮して国産の食材を使い、化学調味料や保存料を使わないように心がけており、「家族水入らずでおいしい和食を楽しんでください」と話している。

おすすめMENU

- ①だし巻き玉子¥715 / ②鮮魚刺三種盛 ¥2,090~ / ③若鶏和風唐揚げ¥660 / ④炭火串焼おまかせ五点盛¥990 / 活あじたたき ¥990 / 炭火串焼各種¥200~ / かわいい唐揚げ¥880 / 鯛カブト煮付け¥880 / 縞ほっけ焼 ¥880 / 自家製豚ロース西京焼¥880 (税込み)

麻衣子さん(37)の希望でキッズスペースを設けたほか、通路に板を張ってフラットに改装し、小さな子どもでも安心して食事ができるため、

名誉市民の小池邦夫さん、「絵手紙の心」語る 出身地の松山と狛江の絵手紙交流も展示

狛江市名誉市民で、絵手紙創始者の小池邦夫さんの講演会「絵手紙発祥の地-狛江~狛江で育った絵手紙~」(狛江市主催)が3月24日(土)にエコルマホールで開催され、北海道から九州まで全国の絵手紙愛好家ら約600人が参加、熱心に話に聴き入っていた。

講演は、小池さんと調布市にある武者小路実篤記念館首席学芸員の伊藤陽子さんとの対話形式で行われた。小池さんが信奉する実篤の絵や



参加者と交流する小池さん(左)と妻の恭子さん

書をスクリーンに投映、対象をよく観察して丁寧にかくことの大切さを実篤の作品から感じたなど「絵手紙の心」について熱を込めて語った。

講演に続いて参加者と交流、北海道や九州から訪れた参加者もあり、なごやかな雰囲気の中で絵手紙談義



狛江・松山の交流の絵手紙展示

に花を咲かせていた。闘病中のため車いすで出席した小池さんは「たくさんの方からエネルギーをもらい、新しい力がわいてきました」と喜んでいました。参加者たちは「小池さんの元気な声が聞いてうれしかった」などと話していた。

ロビーには小池さんの出身地の愛媛県松山市民と狛江市民との絵手紙交流など多くの絵手紙が展示され、参加者たちは熱心に作品に見入ったり、スマートフォンで撮影したりしていた。この日から巨大絵手紙グッズが新たに販売され、人気を集めていた。



桜まつり会場のサクラの花の下には傘の花

和泉多摩川で初の桜まつり 家族連れなどが雨の花見

こまえ桜まつり(狛江市主催、狛江市観光協会後援)が3月26日(土)に和泉多摩川駅近くのぼかぼか広場と多摩川河川敷で開催された。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和3年、4年はスタンプラリー形式で実施されたが、今年はぼかぼか広場の完成に合わせ、平成30年まで開催されていた根川さくら通りから和泉多摩川へ会場を移した。

広場と多摩川河川敷に張った30以上のテントで市内のカフェや飲食店、菓子店などに加え、新潟県長岡市川口地域、山梨県小菅村、静岡県三島市も参加、川魚の塩焼きや特産品、飲み物や食べ物を販売した。

ただ、この日は朝から雨に見舞われ、サクラの花も冷たい雨に打たれていた。ステージの催しは雨で中止となったが、悪天候にもか



サクラのライトアップ

かわらず久しぶりのまつりを楽しもうと家族連れなど約3,000人が訪れ、テントの前に行列ができる店もあった。

また、西河原公園では17日から31日までライトアップが行われ、訪れた人たちは夜空に浮かぶ幻想的なサクラの花を楽しんでいた。

新しい茅葺き屋根を披露 むいから民家園でまつり

開園20周年を祝う「みんなのむいから民家園まつり」が3月26日(土)に同園で開催された。

まつりは地元町会や小中学校PTA、おやじの会連合などが結成した古民家園20周年記念事業実行委員会が企画・運営に当たった。

訪れた人たちは、園内にある旧荒井家住宅主屋の葺き替えられたばかりの茅葺き屋根を見上げ、「きれいになって良かった」などと話していた。まつりは、降りしきる雨のため、おはやしや箏曲の上演などが中止されたが、訪れた人々にかまどの湯でいれたさくら茶がふるまわれたほか、子ども向けに風車や割りばし鉄砲などの工作や昔遊び、縁日などが用意され、家族連れを楽しませていた。

園内には、20周年を記念して梨の木が植樹された。

荒井家住宅の屋根は、経年劣化などが目立つようになったため、初めて全面的に葺き替えられたもので、クラウドファンディングで

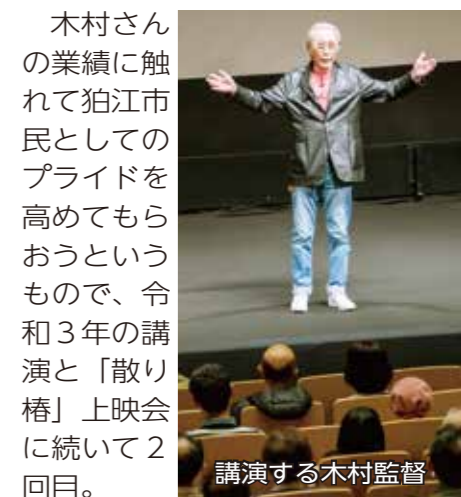


屋根が葺き替えられた旧荒井家住宅。雨の中で民家園まつりが催された

資金の一部を募って実施された。屋根の材料は御殿場産の茅を使い、新潟県の職人が作業を行った。

名誉市民の木村大作監督 「劔岳 点の記」上映と講演

狛江市名誉市民で文化功労者でもある映画監督木村大作さんの講演会と「劔岳 点の記」の上映会が3月19日(土)にエコルマホールで開催された。



講演する木村監督

木村さんの業績に触れて狛江市民としてのプライドを高めてもらおうというもので、令和3年の講演と「散り椿」上映会に続いて2回目。

事前に申し込みを受け付けたところ多くの申し込みが寄せられ、当日は約450人が参加した。

木村さんが初めて監督をした「劔岳 点の記」は平成21年に公開されて日本アカデミー賞6部門を受賞する快挙を成し遂げた。標高約3,000mの過酷な環境の中で撮影に取り組んだ当時の現場秘話や制作の意図、さらには多くの作品のカメラマンとして親交のあった黒澤明監督とのエピソードな

どをユーモアたっぷりに披露。参加者たちは時に笑いを浮かべながら熱心に聴き入っていた。

続いて「劔岳 点の記」が上映され、参加者たちは迫力ある映像を食い入るように見つめていた。